ご近所のお医者さん

639

川端医院長 **川端 徹さん** ＝泉大津市

オレンジリングの効力

祭りと認知症支援の輪

「そのリング、着けていると認知症になりにくいんけ!?」

がん末期の初老男性の家に訪問診療した際、彼の発した言葉です。リングとは、認知症サポーターの証しとなるシリコン製のオレンジリングのことです。認知症サポート医である私が着けている手首のリングを見て、こう聞かれました。

息子さんが養成講座を受講し、持ち帰ったリングを奥さんも着けていました。

認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする応援者です。全国で1400万人（総人口の11％）います。

増え続ける認知症。2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると推計され、認知症サポーターが多い地域ほど認知症の人や家族が一緒に生活しやすくなるといわれています。

この認知症サポーターを、あっ！と驚く方法で広めている地域、団体があります。その名は、「だんじり認知症サポーター」。祭り本番、オレンジリングを着けた大勢の法被姿の引き手がだんじりを勇壮に動かす様は、多くの市民に啓発の志と感動を伝えます。14年、泉大津で始まり、泉州地域を中心に府内各地に広がり現在約2450人。冒頭の息子さんも地元の青年団員としてだんじりに参加し講座を受けていたのです。

日本古来の町家社会の絆が、だんじり祭りを通して脈々と残っています。だんじり文化は世代を超えて人々の結束を強め、地域のコミュニティーの中心となっています。寄り合いなどで集まる組織は、災害時や地域包括ケアシステムの一役を担います。だんじり認知症サポーターは、祭りの側面に認知症啓発や支援の機会を組み込んでいます。

スポーツ・ボランティア・趣味など社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症、うつのリスクが低い傾向がみられています。オレンジリングは社会とつながる最初のツールとなり、自身が認知症を発症した際は周囲の人への気付きとなります。

冒頭の言葉、オレンジリングの認知症予防の効力!?　まんざらでもないと思っています。